

分級クラス活動（アクションユニット）

理想の安息日学校とは、どのような所でしょうか。それは、温かく思いやりのある雰囲気を持った、新しい教会員も昔からいる教会員も、日常生活で込み入った出来事に直面する時に必要な霊的な支えと励ましを受け、また、精神的な支えと励ましを受ける場所です。それは、休んでいる教会員を真っ先に気遣い、皆が1週間の間に経験した伝道活動の喜びと課題を分かち合う場所です。その際に、分級クラスの伝道活動リーダーが、そのクラスの伝道活動計画に従って、クラスを導いていく場所です。

また、祈りの課題が更新される場所であり、魂を勝ち取る訓練が次の週の伝道活動の必要に合うように行われる場所であり、次の週の生活と伝道の機会に適用するように、皆が聖書の学びの分かち合いに参加する場所です。

ここでは教会を、使命の達成と、新しい教会員と積極的な長年の教会員の支援ができるように整え、備えさせ、稼働させることを目的とした、安息日学校の基本的な分級クラス活動計画の実施について、簡単な説明をします。

安息日学校のあらゆる目的と重要な要素にわたる革新的で総合的な活動計画であり、また信徒伝道のあらゆる面をも幅広く視野に入れることが可能となっています。

成果

この活動計画によって、少なくとも7つの面で著しい成長がもたらされています。

- 1 聖書研究がすぐに、あるいはごくわずかの週のうちに増加したという多くの報告があります。日毎研究は90~100%だとも、たびたび報告されています。クラスで教会員が学んだことを分かち合う時間や機会を持ち、その喜びを経験するならば、分かち合いができるよう熱心に学ぶのです。
- 2 教会の質的な成長に極めて重要な、愛に満ちた思いやりのある雰囲気が現れます。教会を離れるほとんどの教会員は、教義上の問題によってではなく、真の友情と愛に満ちた交わりがないために離れていくのです。
- 3 出席率が以前の最大6倍にまで増えたとの報告が寄せられています。分級クラス活動に参加した教会員が胸躍らせて自分の友人をクラスに招くという、成果をもたらすのです。
- 4 多数の休んでいた、また以前は安息日学校生徒・教会員だった人たちが戻ってきています。多くの分級クラス活動が、そのような人たちを呼び戻すことを最優先事項としています。
- 5 あらゆる種類の伝道活動、特に聖書研究の働きへの教会員の参加は目を見張るものがあります。言うまでもなく、これが分級クラス活動の主要な目的です。
- 6 以上の出来事により、多数の質の高いバプテスマがもたらされています。新しくバプテスマを受けた人たちが、放っておかれて去っていくことなく、すぐに導いた人たちが安息日学校の分級クラス活動に加わるよう勧めます。ここで更なる支援と、力強く魂を勝ち取れるように伝道の訓練を受けるのです。
- 7 什一献金が3年間で最大8倍に増え、安息日学校の献金も、報告によれば、短期間に多くの所

で2倍以上になりました。各々の分級クラスが主とのお働きに胸躍らせると、自然に、聖書研究と祈りに更なる時間を捧げることに加え、福音宣教を早めるためにいっそうの献金を捧げるのです。

達成のための基本的概念

初めに、活動計画を生み出すにあたり、何よりも熱心に主からの知恵を求め、以下のエレン・ホワイトの著書に記されている、「洗練された働き」のための9つの基本的な助言に基づき、多くの祈りを通じて活動計画を見出し、立て上げました。

- 「教会は、現代の真理の福音をすべての人々に伝える義務を認識せねばならない」（「クリスチャンの奉仕」9章より）。そうすることで、「純粋な幸福と豊かな喜びを見出すであろう」（「レビュー・アンド・ヘラルド」1878年12月12日）。
- 「われわれはまた、他人に与える時にのみ受けることができる」（「各時代の希望」39章より）。
- その働きは、教会員と牧師が一致して働かなければ、決して終わることはないであろう（「福音宣伝者」より、要約）。
- 必要不可欠な後の雨は、「神と共に働く者たちが、教会で最も割合として多」くなるまで、受けることができない（鉤括弧部分「レビュー・アンド・ヘラルド」1896年7月21日）。
- 「われわれの民に与える最も大きな助けは、神のために働くことと、牧師にではなく神に頼ることを教えることである」（「教会への証し」第7巻、19ページ）。
- 「時は短く、われわれの力はより大きな働きのためにまとめられなければならない」（「教会への証し」第9巻、27ページ）。
- 「すべての教会がクリスチャンの働き人を養成する学校でなければならない」（「ミニストリーオブヒーリング」第3部、第9章より）。
- 「もし安息日学校が正しく行われるならば、それは人の魂を真理に導く神の一大機関となります」（「安息日学校への勧告」第4部より）。
- 「誤ることのないお方」が「クリスチャンの働きの基盤として」小グループの形成を勧告している（鉤括弧部分「教会への証し」第7巻、21、22ページ）。

小人数からなる安息日学校分級クラス活動によって、上記のご命令に従うことが可能なのです。かねてより安息日学校は毎週持たれているので、他に更なる時間を必要とするものを付け加えることなく、組織的・継続的に訓練を施す優れた学校とすることができます。そこには伝道活動リーダーがおり、最大の助けとして、週毎に理論的かつ実践的に魂を勝ち取るための育成と訓練があるので、「洗練された働き」のために一致して神と共に働くことのできる教会員が、過半数を占めるようになっていきます。

教会全体で一致して働く時、神が働かれて、限りない結果が生み出されます。「もしもクリスチャンたちが、ひとつの目的の完成のために、唯一の力あるお方に従って、一体となって前進しながら協力して活動するならば、彼らは世界を動かすだろう」（「教会への証し」第9巻、221ページ）。祈りは活動する際になくしてはならないものとなります。「多くの祈りによって成し遂げられ…た働きだけが、善に対して力のあるものであったことが最後にわかるであろう」（「各時代の希望」第38章より）。

そして、活動計画は大変単純なので、全ての人にとって分かりやすいものです。私たちは単純な

計画を実践するよう教えられており、その結果は約束されていることがわかります。「教会同士で、最も単純なやり方での働きが考え出され、実施されるべきである。もしも教会員が一致してそのような活動計画を受け入れ、根気よく遂行するならば、豊かな報いを刈り取るであろう。なぜなら、そこで次第に希望の持てる経験をするようになってゆき、能力は増してゆき、取り組みを通して魂が救われてゆくからである」(「教会への証し」第6巻、433ページ)。

始めるには——そして続けていくには

安息日学校分級クラス活動を成功させるには、10の重要な要素があります。

- 1 クラスの人数は、6～8人
- 2 各々のクラスに、伝道活動リーダーを置く
- 3 各々のクラスで、伝道活動計画を持つ
- 4 クラスの時間は、1時間
- 5 5分間：休んでいるクラスのメンバーに目を向ける
- 6 20分間：伝道活動の時間
- 7 35分間：聖書の学びの分かち合いと適用
- 8 週毎にリーダーミーティングをもつ
- 9 週毎/月毎に、成功談を教会で分かち合う
- 10 月毎に、家庭で親睦・反省会を持つ

以下に、これら10の重要な要素についてひとつずつ詳述します。

- 1 メンバーの参加を最大限可能にするために6～8人でクラスを形作り、維持しますが、これは調和と霊的成長、伝道活動に不可欠です。20人のグループではたいてい、参加するようになるのは3、4人ですが、一方6～8人のグループではたいてい全員の参加が可能となります。また、全員に分かち合う時間があります。普通は皆、最初から打ち解けて、人生経験、喜び、重荷、伝道の経験や課題を分かち合って話し合ったり、また魂を勝ち取る際の個人的な支援や励まし、訓練を受けると、居心地良く感じます。他のメンバーが直面している状況を知るにつれて、その人たちを理解し、愛し、支えるようになり、傷つけることがなくなっていきます。多くの人々が教会を去ったのは、傷つけられ、理解されていないと感じたからです。育むことに加え、私たちは基本的に、聞くことは10%位覚え、また話すことは90%覚えているので、相互の交わりによって自分たちの隣人に効果的に話しかける備えをさせることにもなります。クラスが9人か10人に増えたら、クラスを2つにします。たいていは、クラスでの経験によって、そのころまでには新しいクラスでのリーダーたちが育っていることでしょう。
- 2 牧師、信徒伝道会長および安息日学校校長は、各々の分級クラスに可能な限り最良の伝道活動リーダーを選んで訓練します。この献身者はお世話係りとも呼ばれ、信徒伝道会長と安息日学校校長のアシスタントであり、魂を勝ち取るためによく訓練された一団を育成するために、分級クラスリーダー(5で説明)と協力して、熱心に思慮深く、そして忍耐強く働かなければなりません。伝道活動リーダーは、一緒に楽しんで働ける分級クラスリーダーと組んだ方がよいでしょう。各々の分級クラスは書記を選びます。書記は祈りの課題を記録したり、クラスの活動計画とそ

の記録を管理し、伝道のための資料がメンバーに渡されるよう準備し、必要に応じてその他の補助を行います。

(全てのリーダーと積極的なメンバーには、自分自身が伝道する熱心さを持つと同時に、伝道する他のメンバーを励まし、訓練し、支援するという「二重の視点」が必要です。)

- 3 各々のクラスは、具体的な目標を伴う、伝道活動の1年間の計画を必ず書きます。分級クラスの活動計画を立てるための集まり(会議)は大変重要です。具体的な伝道活動の計画がなくては何も達成されません。計画があれば、結果は聖霊の導きと力を通して限りないものとなります。

分級クラスの活動計画作成会議の前に、伝道活動リーダーたちは牧師、信徒伝道会長、安息日学校校長とミーティングを持ち、教会の伝道活動計画と目標を決定しなければなりません。各分級クラスの計画は、教会が立てる収穫のための伝道活動を意識して、それに結びつける形で行われる計画となることが望ましいからです。

教会の目標を知れば、耕し、種をまき、刈り取る教会の計画にうまく協力するために、熱心な祈りと研究によって、自分たちの分級クラスに何ができるかを書き出すことができます。やるべきことは、過去に何が一番うまくいったか、また魂を勝ち取る最大の可能性を持つものは何かを箇条書きにすることです。クラスのメンバー一人一人の経験や可能性を考慮して、やりたいと思うものを決めるべきです。どのようにすれば始めやすくなるか、またそれをどのように発展させるかを判断しなければいけません。計画として見込みのあるものができたら、分級クラスで活動計画立案に入る準備ができたこととなります。

活動計画作成の前のこの特別会議では、牧師、信徒伝道会長、安息日学校校長が、最初に教会の具体的な伝道活動の目標を分かち合い、クラスがどのような助けができるかを示して、会議を導かなければなりません。それから、できれば簡単な記録用紙を渡して、分級クラスに活動計画と具体的な目標を書き出してもらい、会議の終わりにコピーを1部、牧師まで提出するよう依頼しなければいけません。

その後伝道活動リーダーは、分級クラスリーダーの支援のもとに、可能なら先ほどの記録用紙を用いて、必要に応じて以下の手順を自分たちのグループで踏んでもよいでしょう。

- A. きよめと、魂に向けられたキリストの愛と目的における一致、聖霊の知恵を求めて主に熱心に祈ります。
- B. 活動計画作成会議中は全員が参加するようお願いをします。各々の意見や発言を尊重してください。最終案は、メンバーが活動計画を認め、実行するために共に働くよう、全てのメンバーの意見を聞いたものでなければなりません。
- C. 教会の目標を簡単に振り返り、夢を大きく持つよう皆に呼びかけます。
- D. 過去に何が一番うまくいったかを分かち合うよう頼みます。どのようにしてアドベンチストになったかを分かち合うことから始めてもよいでしょう。要点を全て記録用紙に記入します。
- E. あらゆる種類の提案を分級クラスのメンバーに求め、全て記入します。
- F. 自分の提案を出し、適したものを記入します。
- G. 実行可能なアイデアや活動計画を1～3つ皆で選び、まとめて、目標期日をつけた具体的な目標を書き留めます。例えば、「(15番クラスの)メンバーは各々一人の休んでいる教会員を連れてくる。一人3つの聖書通信講座を学び合い、もう一人のメンバーと一緒に

週に2回聖書研究会を行う。クラスのバプテスマ目標は、10月25日の伝道集会までに8人」。

H. 分級クラスの活動計画には、具体的な目標に到達するための踏むべき手順を含めてもよいですし、計画と目標を更新し推敲するために、毎月集まるための日程や場所を記しておくべきです。（この月例の交わりと評価のための家庭集会については、このあとの10で詳しく述べます。）

活動計画のコピーを、監督し、励まし、支え、必要に応じて訓練を施して下さる牧師や信徒伝道会長に提出します。

- 4 分級クラス活動の時間は、1時間をあてます。安息日学校には4つの目的があります。交わり、伝道活動、聖書研究、海外宣教です。初めの3つは小グループで最も成し遂げられるものであり、海外宣教のための献金もそこで一番奨励することができるでしょう。そのために、分級クラス活動には1時間が必要です。

最初の5分間でメンバーを歓迎し、休んでいる教会員に目を向けた後は、20分間を伝道活動に、次の35分間を聖書の学びの分かち合いと適用に用いることが不可欠です。

たいていは、安息日学校は9時15分に始まり、クラスを9時45分から10時45分で行っています。もしくは、他の所ではより多くの時間をとるために安息日学校を早めに始めています。

リーダーは座ったままで、メンバーと同じ高さに身を置き、講義をするのではなく、まとめ役にならなければなりません。

- 5 分級クラスリーダー（分級クラス全体のリーダーと聖書の学びの分かち合いのリーダーを兼ねる）は、訪問の手配と休んでいるクラスのメンバーに目を向けることに5分間とります。休んでいるメンバーに対し、愛を持って気遣いをするのは非常に重要です。多くの人々が離れていったのは、安息日学校を休み始めた時に、すぐに配慮を受けなかったからです。歓迎して出席を取った後、リーダーは、欠席している分級クラスのメンバー一人一人に対して、出席しているメンバーから電話をするか、書面のメッセージを送るための手配を行います。電話か書面かの判断は、対象の状況によって最善の判断をします。多くの場合、その日の午後に、この活動は行われます。もしもそれで、また祈りで功を奏しなければ、長老や牧師が連絡を取るのがよいでしょう。早急の配慮が必須です。

- 6 伝道活動リーダーは、伝道活動に20分間とります。

A. クラスの活動計画と目標を振り返ります。

B. クラスの活動計画に関連した経験を話してもらおうよう呼びかけます。それぞれの経験が分かち合われたら、リーダーは次のように問いかけます。「このことから、何を学ぶことができるでしょうか」。良いことにせよ悪いことにせよ、その経験から共に話し合い、学びます。魂を勝ち取るための最も有効な訓練は、実際の経験から教訓を得ることです。どのようにしたら、その訪問、接触あるいは学びがより良くなっていたかを話し合ってください。書記は、後日用いるために、得られた教訓を記録します。

C. 伝道で課題を抱えている人に対しては、提案するだけでなく、皆の知恵を活用して支援します。メンバー一人一人に、困難を経験している人を励まし、支え、自分たちの経験から提案をする機会を提供しましょう。

D. もしも課題に対する解決策が見つからない場合は、信徒伝道会長、リーダーミーティン

グ（下記8で後述）、あるいは牧師に援助を求めましょう。

E. 次の週に必要であろう簡単な訓練をします。これは、その時来ている人たちに適したものでなければなりません。

訓練には、下記のものなどが含まれるでしょう。

- (1) 魂に対するキリストの愛の必要と、聖霊の力と知恵と絶えざる導きの必要について
- (2) どのように親切にし、気を利かせるか
- (3) 適切な口調の用い方
- (4) 訪問先での「F.O.R.T.」用いた会話の始め方——「Family（家族）」「Occupation（仕事）」「Religion（宗教）」と、「Testimony（証し）」
- (5) 様々な状況で、どのように自分の証しを展開し、用いるか
- (6) 傾聴の重要性と方法について
- (7) どのように違いを受け止め、決して論争しないようにするか
- (8) 聖書研究の始め方と授け方
- (9) 伝道に役立つ聖書への印の付け方
- (10) どのように、元教会員や休んでいる教会員を訪問するか
- (11) 試金石となる真理を教える前に、キリストを受け入れる決心に導くことの重要性とその方法
- (12) 決心に導く方法について

F. クラスの活動計画と目標を促進します。

G. 訪問を割り当て、必要なら実習の手はずを整えます。

H. 書記が、必要な伝道の資料を配り、祈りの課題を更新するための時間をとります。

I. 二人ずつ組になって、祈りたい人皆で、求道者、活動計画、目標、そして聖書の学びの分かち合いのために特別な祈りを持ちます。祈りの課題にある人たちのために毎日祈ることを皆に覚えてもらいます。

7 分級クラスリーダーは、聖書の学びの分かち合いのための35分間を、ソロ歌手のようにではなく聖歌隊の指揮者のように全員を参加させながら、その週の生活と伝道に適用できるように導きます。この方法は、深い聖書研究からそれていくものではありません。むしろ人々をそこに引きつけていくことが目的です。毎日家庭で深い聖書研究ができるようになることが、クラスの重要な目標です。目標は、家庭での日毎の聖書研究を動機づけ、促進することであり、クラスでは、その経験から今日神が私たちに語られていることを引き出し、私たちの生活状況と、次の週に出会うかもしれない伝道の機会に適用することです。

分級クラス活動は伝道活動に重点を置きますが、聖書の学びの分かち合いが最小限にされるべきではありません。なぜなら、より深い聖書の知識は育成にも伝道にも極めて重要だからです。知識は、講義ではなく各人が発言することによって最も良く得られ、心に留められるのです。人々は、自分たちが話すことは90%覚えており、また聞くことについては10%ほどしか覚えていません。もしも分級クラスリーダーが、全てを詳しく教える講演者になるよりも、むしろ全員を学びの分かち合いに参加させることのほうに力点を置いて取り組むなら、聖書の学びの分かち合いへの参加はたいてい100%まで上昇します。クラスへの参加によって、結果として家庭での学びが増します。メンバーがクラスで分かち合う機会を与えられると、分かち合うことができるよう学ぶのです。

分級クラスリーダーには、二重の目標があります。学びは伝えられるだけでなく、その人に合ったものとならなければなりません。

分級クラスリーダーは、メンバーの霊的および伝道活動の必要に合わせて適用の質問と事例研究を書き、用意して来なければなりません。「もしもあなたの隣人が、このような質問をあなたにしたら、何と答えますか」というような質問に答えることに参加することで、恐れが減り、メンバーが他の人と交流を持ってイエスを分かち合う準備をする助けになります。学びの時に次の5つの、対話を引き出す質問を、特定の聖句の重要性を強調するために用いることもあるでしょう。

- 何と書いてありますか。
- どういう意味ですか。
- あなたにとって、どういう意味がありますか。
- 自分の生活の中で、この聖句がその通りだと、あるいは重要だと思った経験を分かち合しましょう。
- 次週、この聖句を伝道活動の時や誰かと分かち合う時に、どのように用いることができますか。

こうして、分級クラスリーダーは皆と一緒に聖書を調べ、学びをその週の生活と伝道に適用していきます。その週の霊的および伝道活動の目標に分級クラス活動を到達させ、皆が力に満たされるよう求めて祈り、終了します。

残りの手順が、計画を継続させ、成長させる助けになります。

- 8 週毎にリーダーの協議および訓練のためのミーティングを必ず実施します。分級クラスリーダーと伝道活動リーダーは、安息日学校校長や信徒伝道会長や牧師との相互の支援、訓練、また組織的な取り組みを強めるために集まることが不可欠です。

共に熱心に祈りましょう。その後、クラスでの5分間、20分間、35分間の流れの順で話し合うのが順序としては適切です。牧師（あるいは他のリーダー）は皆と共に、初めに良かったことについて話し合い、それから分級クラスで解決できていない、休んでいるクラスのメンバーへの連絡、伝道活動、聖書の学びの分かち合いについての課題があれば、話し合わなければなりません。このミーティングは必ず対話形式で行い、牧師の講義ばかりになってはいけません。繰り返しになりますが、誰もが、聞くだけよりも発言することによって、より多くのことを学び、覚えるのです。分級クラスやリーダーミーティングにいる皆から学ぶのです。

可能であれば、この必須のミーティングはできるだけ週の後半、あるいは安息日の朝に行うのが賢明です。分級クラスリーダーたちが、必要に応じた質問と事例研究を書き出しておいたものを分かち合うことができ、各々が自分のクラスに最も合ったものを選ぶことができます。

- 9 週毎あるいは月毎に、教会全体で分かち合います。信徒伝道会長は、分級クラスから面接その他を通して最適な成功談を選び、安息日学校の校長挨拶の時間や信徒伝道の奨励の時間、あるいはもっと良いのは礼拝の時に、教会員全体の前で分かち合しましょう。伝道の成功は広がっていきます。成功を分かち合うことは、でき得る最高の奨励です。それにより皆が、特に弱まっているクラスが励まされます。

- 10 月毎に、家庭で親睦・反省会を持ちます。より一層の成長を促し、互いの信頼や交わりを強めるために、クラスのメンバーの家庭で形式ばらない、くつろいだ雰囲気の良い親睦・反省会を持ちます。クラスの活動計画作成会議の時に、あらかじめ日時と場所を決めておきます。

これは、交わりのための楽しい時間です。相互理解を深め、絆をより親密にし、友情を更に深めるための時間です。よければ、ゲームや軽食を入れてください。集まりの終わりごろには祈りの時間や、クラスの目標に向けての進展を振り返り、活動計画を推敲するための時間を取っておきましょう。

これらの簡単な手順を踏むことで安息日学校は、程なく世界中の数え切れないほどの箇所と同様に、活力に満ちた育成と伝道活動の中心をなす所となるでしょう。幾千という人々をイエスのご再臨のために備えさせるあなたがたの働きを、神さまが祝福してくださいますように。

安息日学校分級クラス活動の支援体制の利点

- 1 メンバーは具体的な育成と聖書研究の目標を書き出し、そこに到達するように協力し合います。
- 2 毎日の聖書研究の時に、お互いのために祈り合います。
- 3 聖書研究会が始まったら、メンバーは分級クラスが関わる全ての「生徒」と聖書研究を行う人の名前を祈りのリストに載せ、日毎にその人たちのために祈ります。
- 4 クラスの20分間の伝道活動の時間に、生の成功談を分かち合って励ましをもらったり、より効果的な伝道活動のための訓練として、そこから教訓を得ます。
- 5 分級クラスや、週毎の牧師・リーダーのミーティングで、メンバーは自分たちが直面する課題に対処するために必要な訓練を受け、またあらゆる解決策を提案してもらうことで援助を受けます。
- 6 新しい教会員は、必要な愛とサポートを受けます。伝道集会の時にはメンバーは自分たちの「生徒」に寄り添い、バプテスマを受けた後には自分たちの安息日学校分級クラス活動のメンバーになるよう誘います。新しい教会員は、結び付きが伝道者だけでなくになりがちですが、このようにして、心から愛を注ぐ小さな家族と結びつくでしょう。なぜなら、メンバーはその人と初めて出会ったところから日毎に祈り、霊的な歩みのことで話し合ってきたからです。
- 7 かつて長欠者であった教会員が、魂を勝ち取る人になります。これら新しく生まれた人たちが支援グループの一翼を担うことによって、失望させられないように変えられていくのです。このグループは無関心になったりうわべだけのことはせず、その人たちのためならほとんど命をかけるでしょう。メンバーは痛みを伴いながら、その人たちを生み出すために助けとなってきました。メンバーは、伝道に関わらずに単に傍観しているような人たちではありません。全てに関わってきたのです。
- 8 メンバーは、時にはつらい労苦を伴いながら得られた実りが、教会の裏口からひっそりと抜けていくままにはしないでしょ。メンバーは、その人たちがどのような困難を抱えてもサポートし、成長を助け、実際的な訓練を施して、その人たちにとっても伝道することが自分たちの生き方となるでしょう。

以下のことについて説明します。

安息日学校分級クラス活動を始めるには

- 1 始めるための一番の方法は、「始めること」です。1時間のクラスのための計画を立ててください。普段の担当の方々には、その日は責任を持つ必要はないことを前もって知らせておきましょう。

- 2 バランスのとれた、大まかな聖書の学びの分かち合いの概要を準備します。含めるべきこととしてあげられるのは、聖書を読むこと、適用と証しのディスカッションのための4～5つの質問、実生活に即した、および事例を用いた学び、終わりには献身と祈りの訴えをすること、です。
- 3 安息日学校を6つの分級クラスに分けます。
 - A. 祈りに加え、次の準備が必要です。
 - (1) クラスの数に必要な分よりも少し多めに、A5サイズ位の紙に大きく番号を書きます。その紙をクラスの席に置きます。各クラス内ではできるだけお互い近くに集まります。そのようにして、分級クラスが落ち着いてできるということと、クラスのための場所が十分にあるということを実際に示します。
 - (2) 安息日学校の出席者を6人ずつの分級クラスに分けるために、出席者が72人いる場合で考えます(各6人のクラスが12組)。1、2、3、4から12までの番号を書いた5cm四方位の大きさの紙を5束用意します。出席者を分ける際に、もしも60人だけだったら、12枚の各束の上から10枚ずつを取り、それをひとつの束にして配る準備をします。
 - (3) 安息日学校が始まる前に誰か、仮に「イチロー」さんだとして、入って来る人を数えて出席者の人数合計をつけておいていただきます。番号札を渡す際に、彼に出席者の人数を聞いて全体を6人ずつに分けることができるようにするためです。
 - B. 短い賛美と祈りの後、次のように言ってもいいでしょう。「安息日学校は参加するためのものです。私たちはこれから新しい、世界各国で楽しまれ、成功をおさめていることをやってみるつもりです。やってみなければ、どんなものかはわかりませんね。そこで、今日それをやってみたいと思います。『イチロー』さん、出席者は何人ですか？」彼が答えます、「59人です」。「ですので、グループは10組必要です」(紙の各束の上から10枚ずつ取り、それを一束にまとめて配る用意をする)。「1から10の番号が書いてある紙のそばに座っている方は、お手数ですがお立ちいただいてその番号を持ち上げていただけませんか。ありがとうございます。さて、他の皆様にはご自分の荷物を全て持っていただいて、前に来ていただきたいと思います。感謝します」(必要なら繰り返して)。
 - C. 6人を選び、分級クラスの両端の2人が前列の信者席に、後ろの列に座っている4人に向き直る形で座っていただき、分級クラスで座ってほしい形を実演していただきます。
 - D. 信者席で10までの番号を持ち上げてくれている方々と一緒に番号札を配り、その場所にすぐ移動するようお願いします。
- 4 次の問いかけで始めます。「ご自分のグループで、ご存じない方がいらっしゃる人はどの位いますか」。それからグループ内で順番に、自己紹介をして(知らない人がいるのであれば)、今日神様をたたえたいことを一言で言っていただきます。
- 5 リーダーを選びます。伝道活動リーダーの目的を説明し、それぞれ導きを求めて短い祈りをさせていただきます(時間に気を付けなければなりません)、選び合い、選ばれた人に立っていただきます。各クラスで立ち上がったら、そのクラスの一列目の左側(こちらからは右側)に、その場所にいる人と席を替わって、座っていただきます。それからクラスのリーダーかつ教師、すなわち分級クラスリーダーを選んでいただきます。その人は独演するのではなく各々が分かち合うのを助けるということを説明しましょう。上記の過

程を再度行い、その人たちには一列目の反対側に座っていただきます。

それから同様に書記を選びますが、その人の席はリーダー以外の人たちと一緒によいでしょう。

- 6 伝道活動の時間です。伝道活動リーダーに 10~15 分間（残っている時間によります）、伝道活動をリードしてもらうよう頼みます（聖書の学びの分かち合いのために 35 分とおきましましょう。クラスの時間を守ることに注意を払います）。
 - A. 伝道活動の分かち合いと訓練は、安息日学校においては極めて重要であることを簡単に説明します。最近の経験からの証しを聴衆にお願いし、誰かが応じてくれたら、「これをクラスでしていただきます。この方がご自分の経験を分かち合われたらすぐに、私は皆様に聞きます、『この経験から私たちは何を学ぶことができますか』」。そのように行い、3~4つの返答をいただきます。その後伝道活動リーダーに、一人の人に最近の経験からの証しを分かち合っていたき、皆に『この経験から私たちは何を学ぶことができますか』と問いかけ、リードするように言います。奥深い考察をしましょう。ひとつの経験から、あらゆる学びを得ましょう。書記には、自分たちが学んだことを記録し、その分級クラスで学んだ最も重要な点を分かち合う準備をするよう頼みましょう。
リーダーにどのくらい時間があるかを伝え、3分前になったらまた伝えます。終了直前に、聖書の学びの分かち合いの概要を配ります。
 - B. 終了したら、これを楽しいと感じたり、証しに励まされた人がどの位いるか尋ねます。書記の方々に、学んだことはいくつあるかを、また安息日学校の皆さんと分かち合うために、その分級クラスで学んだことをひとつ話していただきます。こちらでコメントをしてください。
 - C. それぞれのクラスが計画を書き、具体的な目標を持ち、毎週クラスで 20 分間とって経験を分かち合い、そこから教えを受け、課題に対処し、共に祈れば更に楽しくなる、と話してください。
- 7 聖書の学びの分かち合いの時間です。分級クラスリーダーに、皆を学びの概要にならって参加させるよう頼みます。初めに祈ることを、また自分たちが一番気に入った項目を選べるよう簡単に見直すことを頼むのもよいでしょう。それを全て網羅することはできないかもしれないけれども、終わりの祈り、すなわち目標を達成できるよう神に助けを求めるための祈りをする 3 分前に、献身のための最後の質問にいくよう、明確に伝えましょう。時間がどのくらいあるかを伝え、始めるよう言いましょう。講義をするのではなく、できるだけ皆をディスカッションに参加させるようにすることを忘れないよう伝えてください。
- 8 終了したら、「安息日学校は参加するための場所です」と言い、次のように問いかけてください。
 - A. 「どのくらいの方が参加しましたか」。
 - B. 「楽しいと感じた方はどのくらいいらっしゃいますか」（関心の高い反応が必ずある）
 - C. それから、「どこが気に入りましたか」と尋ねてください。胸を躍らせるような返答があるでしょう。返答に対し、計画に様々な面がある理由を強調してコメントしてください。
 - D. そして尋ねます、「続けたいと思われる方はどのくらいいらっしゃいますか」（たいていは全員）。もしも望まれるなら次週続きをするように取り計らいます、と話しましょう（この後で、教会の理事会からの承認と支援を得るのがよいでしょう。経験する前に承認を得るのは、得てして難しいものです）。

E. 多くの所では、同じクラスのままにしています。ある所では、可能な限り最良のリーダーを2人選び、紙に名前を書いてその下に4つの空欄を入れ、掲示板に貼って、メンバーが自分の希望するクラスを選んでいきます。またある所では全員を分級クラスに割り振っています。祈り、計画を立て、たゆまず励みましょう。そうすれば、神が祝福してくださいます。